

覚えておきたいクラウド&データのキホン(第17回)

クラウドとオンプレミスの違いとは？それぞれのメリット・デメリットや特徴を比較

2022.03.31



企業のシステムを構築するプラットフォームには、大きく分けると「クラウド」と「オンプレミス」の2つがあります。本記事では「クラウド」と「オンプレミス」の違いを紹介します。

クラウドとオンプレミスの特徴

クラウドは、インターネット上の仮想空間でサーバーなどを保有する仕組みのことで、一方オンプレミスは、自社内にサーバーを設置して運用する仕組みです。

クラウドには、基本的に誰でも利用できる「パブリッククラウド」と、単独の企業や団体が独自のクラウド環境を用意する「プライベートクラウド」に大別できます。ここでは、パブリッククラウドとオンプレミスの特徴を比較します。

クラウドの特徴

クラウドはインターネット上の仮想サーバーを、必要な容量だけ利用できる仕組みです。自社でサーバーを保有する必要がなく、インターネット環境さえあれば、誰でも、どこからでもサーバーにアクセスできます。

クラウド事業者が用意したサーバーを利用するため、サーバーの購入や設置するための初期導入コストが抑えられ、申し込み当日から利用できるサービスもあります。自社の保有データが増えた場合でも、ハードウェアを拡張する必要がなく、サービスプランを変更するだけで対応できます。

一方で、クラウド事業者への依存度が高いことも特徴です。何かしらの問題が発生してサーバーが停止した場合、基本的に自社で復旧させることはできません。クラウド事業者の対応を待つこととなりますが、自社を優先して復旧してくれるとは限りません。

オンプレミスの特徴

「オンプレミス(on-premises)」という言葉のプレミス(premises)には、「構内」や「店内」という意味があります。その名の通り、オンプレミスとは自社内にサーバーやネットワーク環境などを保有し、ユーザー自身が保守・運用する形態です。

クラウドが登場する前までは、多くの企業がオンプレミスでシステムを構築していました。オンプレミスでは自社のポリシーに沿った情報セキュリティを構築でき、自社内に閉じたネットワーク環境にすることも可能です。

一方で、オンプレミスは自社でサーバーやネットワーク環境を構築する必要があるため、機器の購入費用や、運用保守する

ための人員確保が必要となります。自社の保有データが増えた場合は、そのたびにハードウェアを拡張する必要があります。

クラウドとオンプレミスの融合「ハイブリッドクラウド」… 続きを読む